

関市議会 文教経済委員会 行政視察報告書

- 1 視察日程 平成30年10月31日(水)～11月1日(木) (2日間)
- 2 視察事項 奈良県大和郡山市 ○地域資源を活用した観光施策について
奈良県桜井市 ○学校給食センターの建替えについて
- 3 参加者 委員長 足立将裕
副委員長 栗山守
委員 渡辺英人
委員 田中巧
委員 鵜飼七郎
委員 長屋和伸
委員 猿渡直樹
随 行 渡 辺 淳 (議会事務局)

視察No. 1 地域資源を活用した観光施策について

訪問日時 平成30年10月31日（水） 13時30分～15時30分

訪問先	所在地	大和郡山市北郡山町248-4
	名称	大和郡山市役所
	担当部署	都市計画課、地域振興課

説明内容（概要）

大和郡山市は、豊臣秀吉の弟、秀長が構築した郡山城や約300年の歴史を持つ金魚の生産地として知られている。「平和のシンボル、金魚が泳ぐ城下町」を合言葉に、金魚すくいを競技として位置付けた全国金魚すくい選手権大会の開催や、近年の郡山城天守台整備に合わせ、城下町アプリケーションを提供したことで街なかの魅力を高めるための散策案内、金魚をモチーフとした金魚スポットの街なか配置など、観光客が楽しみながら城下町周辺を周遊できる取組を行っている。

○郡山城天守台展望施設整備事業

<天守台復元の経緯>

郡山城の中心に位置する天守台は、市民誰もが気軽に登り、眺望を楽しみ、歴史を体感できる場、そして観桜の名所として市民に親しまれてきたが、築城から約400年を経過し、石垣の孕みや変形により崩落の危険があったため立入禁止とされていた。

→【H23年度】「城跡と奈良盆地在眺望できる郡山城天守台付近」が奈良県景観条例により奈良県景観資産として登録されたことで、市長より天守台の再整備をするよう指示有り。

→国補助金（国交省住宅局、街なみ環境整備事業）を利用し、H25年度～H28年度にかけて天守台展望施設整備事業がスタートした。

①樹木伐採 桜の名所百選に選ばれていた天守台の桜は古木化し、石垣の縁ぎりぎりに植わっていたため、根が石垣の石を押し出して崩落の危険があったため、伐採した。

②測量 測量の際、石垣に苔がついているとうまく測量ができなため、職員がぞうきんを使って苔のふき取り作業を行った。

③発掘調査 過去に天守閣が存在したかどうかは文献に記載がなかったが、発掘調査により天守閣が実在したことが判明した。

④石垣修復 石垣全面を解体・積み直しすると文化財の価値がなくなってしまうことから、石垣が孕んでいる北西隅部、南面のみ修復することを決定した。

⑤展望台施設整備 天守台へのデッキの設置、周辺園路の整備を行った。

→今回整備した展望台施設は郡山城跡公園の一部分であるため、今後公園の全体整備が進めば更なる観光客の増加が期待される。現在、天守台がある区域は県史跡であるが国史跡への登録に向けて取り組まれている。

○郡山城にぎわいづくり事業

郡山城天守台展望施設の市内外へのアピール、まちのにぎわいを創出することを目的に展望施設を活用したイベントが開催されている。

<H30年度の取組>

- ・金婚式（4/22）：結婚50年目を迎えられる夫婦（市内在住、在勤、市に縁のある方を対象）のセレモニーを行った。9組の夫婦に市長から感謝状の贈呈、結びの儀式を行った。
- ・水無月コンサート（6/9）：郡山高校、郡山中学校の吹奏楽部による合同演奏を行った。1時間×2回の公演で合計約400名が鑑賞された。
- ・観月会（9/24）：天守台展望デッキをライトアップし、お茶会や雅楽演奏、古事記朗読を行った。
- ・初日の出は郡山城へ（1/1予定）：元旦に初日の出を見るもの。H30.1.1の際は約500名が来場された。

<携帯アプリを活用した取組>

天守台展望施設の完成に合わせ、市内に訪れる観光客を対象に、市内の魅力を知ってもらうとともに、街歩きを楽しんでもらうためスマホアプリを公開した。

【主なコンテンツ】

- ・CGによる郡山城再現 郡山城史跡内でアプリを起動するとVRとARにより豊臣時代の郡山城の風景を再現。
- ・観光情報 街歩きのモデルコースの紹介や、観光施設・飲食店の情報を紹介。
- ・城下町クーポン 市内の飲食店や土産物屋で利用できるクーポンを発行。
- ・金魚スタンプ 市内の金魚にまつわる10か所のスポットを巡って金魚スタンプを集めるスタンプラリー。金魚すくい大会期間中にスタンプを8個以上集めると金魚すくい練習会場の無料券をプレゼント。

○金魚を活用した取組

<全国金魚すくい選手権大会>

おまつりの出店等でなじみのある金魚すくいを競技として位置付けたもの。個人戦、団体戦とそれぞれ優勝者には20万円の旅行券が贈呈される。1995年から開催し、会を重ねるごとに参加人数は増え、現在は抽選している（定員2350人）。近年は8月第3日曜を全国大会の日に設定し、その前日に奈良県予選大会を開催している。奈良県民はこの予選大会を勝ち抜かないと翌日の全国大会に出場できない。開催当初は市役所前の中央公民館で大会を開催していたが、参加人数も増え、会場が狭くなったことから、総合公園施設のアリーナで開催している。大会当日は会場内だけでなく外でも模擬店や物産展を開催し、会場全体でにぎわいを見せている。

<金魚マイスター養成事業>

金魚の歴史・飼い方をはじめ、あらゆる知識を有した金魚マイスターを育成し、金魚を飼う文化を内外に広めていく養成塾を開催している。H27年度からスタート

し、年間7回の講座を受けると資格が得られる。現在77名がマイスターとなっており、金魚ツアーなど各種イベントでの活動や、小学3年生が地場産業を学ぶ授業の際に講義を行っている。

<金魚のお部屋・おうちデザインコンテスト>

金魚と暮らす、育てる文化と生物を大切にする心を広めるため「金魚の部屋」に注目し、そのデザインを競うコンテストを開催。優秀作品は製品化し、展示等している。

<金魚スポット>

市内には金魚をモチーフとしたもの（自動改札機、車止め、マンホール、金魚型灯籠、カフェの机などなど）がたくさんあり、住民、観光客が街歩きを楽しむことができる。

主な質疑応答

- 質問 城は個人の所有か。また修復の際の負担はどのようにされたか。
- 回答 個人所有と、公益財団法人柳沢文庫所有の部分がある。修復の際の個人負担については、市が無償で借地権を譲っていただき、施設使用、維持管理、整備をしていくということになった。
- 質問 アプリの導入費用とその効果は
- 回答 入札を行った結果、ココシルに決定した。導入費用には地方創生加速化交付金を活用し、2年かけてアプリを作成した。アプリの会社には年間27万円の支払いをしている。4カ国語に対応しており、毎月800～1000件のアクセスがある。クーポン画面へのアクセスは月300～400件あるが、クーポンの実際の利用者数は把握できていない。
- 質問 天守閣を作るとどれくらいの費用がかかるか。
- 回答 今回の天守台の整備には2億5000万円の費用がかかり、その内半分を国補助金で充てている。天守閣を作ったほうが更に観光客が集まるのではとの話もあるが、もともと幻の天守閣であって、今回の調査により実在したことは明らかとなったが、実際どのような形状か、三層か五層かについても文献に残っていない。仮に建てるとすると何百億かかるのではないかと推測されるが、歴史的な価値はないため必要ないということで話は終わっている。
- 質問 金魚の年間売上高は、また組合に対する市の補助などはあるか。
- 回答 年間出荷額は約7億4000万円。組合に対する補助は、金魚の疾病予防に対して約80万円。組合活動に対して約40万円の補助を行っている。

- 質問 金魚スタンプを集めると金魚すくい練習会場の無料券をもらえるとあるが、練習会場とは何か。
- 回答 全国金魚すくい選手権大会の会場で練習できる場所のことで、大会当日は練習場を無料にすると人が集まりすぎて収集がつかなくなることから、100円で2回の練習ができるようにしている。アプリで得た無料券はここで利用できる。また、大会の日以外にも市内のお土産屋で金魚すくいができるところがあり、無料券を利用することができる。
- 質問 金魚を目的とした観光客の数は増えているか。
- 回答 展望施設がオープンしてからは、お城と城下町と金魚をセットで見に来ていただける観光客が増えている。全国金魚すくい選手権大会はこれまで会場の大きさの関係で、奈良県予選も全国大会も城下町から外れた地区の会場で開催しており、街なかに寄らずに帰られる人がほとんどだったが、来年度から奈良県大会は市役所前の中央公民館で開催する予定である。これにより、商店街等がにぎわうのではないかと期待している。
- 質問 観光客が金魚を購入できるような場所はあるか。
- 回答 市内に金魚農家が何店もあり、そこで金魚の販売も行っている。個人で金魚資料館を作り、珍しい金魚や、歴史的な資料を展示し、無料で開放しているところもある。
- 質問 天守台の石垣が危険だということで、立入禁止となっていた期間、市民の方から整備してほしいというような意見はあったか。
- 回答 天守台を整備するまでは、市民がお城に集まる機会としては、春に開催されるお城まつりくらいであったため、天守台になぜ登れないのかという問い合わせは過去にはあったが、立入禁止期間が続いた結果、天守台は登れないものという位置付けができていたため、市民の方から早く天守台に登れるようにとの声はなかった。H23年に県景観条例により景観資産として登録されたことで市長が再整備の指示をしたことがきっかけである。
- 質問 天守台整備にあたり、文化財や観光など様々な課が関わっているが横のつながりはうまくいったか。
- 回答 天守台を整備して城下町をどのように発展させていくかを考えた際、教育委員会、地域振興課、都市計画課、企画政策課が互いのノウハウを生かし、市全体でアプリを使ってまちを宣伝していこうという前提の認識があった。アプリ開発には観光協会の協力も得て何度も会議を開催し、知恵を出し合った。
- 質問 お城で武将隊などの活動イベントはあるか。
- 回答 展望台施設の完成式典に火縄銃の部隊を呼んで式典を盛り上げた。また、お城まつりの際に武将隊や子どもたちが市内を練り歩く時代行列を行っている。

調査結果のまとめ

- ・ココシルアプリを利用し、城下町や市内の飲食店、土産物店で特典が得られるクーポンには多くのアクセス数があった。近隣でも多治見市、中津川市、瑞浪市、恵那市、土岐市、可児市、御嵩町においてココシルの「ひがしみの観光パスポート」の導入事例があるため、利用状況や費用対効果を調査したうえで関市でも導入を検討する価値はあると思った。
- ・郡山城天守台の整備に当たり、教育委員会をはじめ、各課、観光協会などが城下町発展のために何度も会議を重ねて知恵を出し合ってアプリを開発したことは素晴らしいことだと思った。関市においても過去に弥勒寺官衙遺跡群にAR、VRを利用した取組の提案があったが、現在、立切れになってしまっている。この遺跡群を観光面で活かしていこうという意識が感じられないため、関市でも各課でもっと連携し合っていけば魅力的な場所になるのではないかと思った。
- ・郡山城天守台と金魚を楽しみながら城下町周辺を周遊できるという観光振興のコンセプトは関市にとって参考になると思った。2つの観光資源が相乗効果を生んでいたが、関市においても刃物ミュージアム回廊を作るだけではなく、善光寺、新長谷寺、弥勒寺などの寺社群、シティターミナルや文化会館周辺地域、本町や大門の商店街を視野に入れた様々な工夫や整備が長期的に取り組まれていくとよいと思った。
- ・郡山城を中心として、まちの活性化、市民の憩いの場を作り上げたことは素晴らしい取組だと思った。遺跡や文化財を活用していくには相当な時間と費用がかかるため、関市では十分に検討していく必要がある。また、先日完成した安桜山展望台を今後どう活かしていくか、考えていく必要があると思った。
- ・天守台整備に当たり、桜の名所であるにもかかわらず桜を切る決断をしたことは、二者択一の中、よく決断されたと思った。やはり行政は先を見て決断するときにはきちんと決断しなければならないと思った。また、整備した土地は個人の土地を含んでいたが、借地権を無償で譲ってもらえている。安桜山展望台にあっては借地契約を結び、地代を今後ずっと払っていかなければならないため、公共施設を作るときは土地を買う等して今後かかる費用を抑えるようにする必要があると思った。
- ・金魚すくい大会は全国から多くの人が集まるイベントで、毎年参加希望者が多く、現在では応募のあった人から抽選で決めているほどであった。関市でも刃物まつりが年1回開催され、多くの方に来ていただいているが、春と秋の年2回開催してもよいのではないかと思った。
- ・金魚で年間7億円以上の売上げがあったが、テレビで宣伝する効果は大きいため、マスコミを活用することは大事だと思った。ココシルアプリなどインターネットを使った取組は若者への効果が大きいため、関市でもこのような取組の検討は必要だと思う。ただし、大和郡山市ではアプリ導入に3千万円程経費がかかっているため、

費用の面を考える必要がある。

- 刃物ミュージアム回廊を整備するに当たって、関市には新町や常磐町など古い町並みもあるため、そういったところに日本刀のお店を並べてみるなど、人を誘導できるような研究をしなければならないと思った。また、大和郡山市では金魚を活用した全国大会を開催し、集客を図っているが、関市では最近、大嶋雲八という弓の名手として有名だった歴史上の人物が取り上げられている。この大嶋雲八の名を冠にした弓道大会などを開催して集客を図るのも一つの手だと思った。

視察No.2 学校給食センターの建替えについて

訪問日時 平成30年11月1日(木) 10時00分～11時30分

訪問先	所在	桜井市大字金屋136番地の1
	名称	桜井市立学校給食センター
	担当部署	学校給食センター

説明内容(概要)

桜井市の学校給食は昭和46年にセンター方式を導入して市内15校の小中学校に約5000食を提供するセンターを建設したが、供用開始後43年が経過し施設設備の老朽化、学校給食衛生管理基準への対応、食の安全性、食育の充実など多くの課題を抱えていた。第2次行財政改革アクションプランによる民間委託導入にあたり、センターの耐震診断を行った結果、大規模地震による屋根崩落の危険性があるとの診断があった。屋根の改修にあたっては、都市計画法及び建築基準法によりセンター自身が既存不適格の建物であるため、建築確認許可を得ることが困難であり、別敷地での新築を行うことに決定。PFI事業手法を採用し平成29年12月、新たな学校給食センターを建設している。

○センターの概要

敷地面積：9808.98㎡

建築面積：1874.63㎡

延床面積：2718.64㎡(1階：1835.18㎡、2階：883.46㎡)

調理方法：ドライシステム

施設整備・維持管理：桜井給食ファシリティーズ株式会社(PFI事業者)

建築構造：鉄骨造2階建て

対象校：小学校11校、中学校4校

調理規模：最大5000食/日

事業費：28億1千万円(施設整備：21億7千万円、維持管理：6億4千万円)

学校施設環境改善交付金2億円

調理運営：東洋食品株式会社(H35.7.31まで)

○センター新設における留意点

- ・学校給食衛生管理基準の沿った衛生管理
- ・適温給食の確実な提供
- ・食育機能、地産地消、防災機能の充実
- ・作業効率、環境負荷への配慮
- ・給食における個別対応の充実
- ・財政支出の低減
- ・市、事業者、運營業務受託者の協力による円滑な業務遂行

○事業地の選定における留意点

- ・給食調理、調理器具の洗浄に大量の水を使用するため、上下水道設備が整っていること。
- ・食中毒防止の観点から、調理後、速やかに各学校に配送できるよう市内小中学校の中心に位置すること。
- ・調理のにおいが発生するため、住宅密集地から離れていること。
- ・衛生面から、食材搬入口と給食搬出口を別にする事。
- ・食材搬入、洗浄、下処理、調理、給食搬出を一方向の作業動線で行えること。

○食缶・食器について



〔保温食缶〕



〔アレルギー食用容器〕



〔給食用食器(PEN樹脂)〕

○災害時への備え

災害発生直後の備蓄食料（アルファ化米等）の提供、炊き出しを行うため、センターの備蓄倉庫には最大容量110リットルの屋外用大型ガス釜を2台収容している。ガスだけでなく、薪を利用して調理することも可能。

○アレルギー対応について

桜井市では、「アレルギー疾患に対する取組」（公益財団法人日本学校保健会H24.3）、「学校給食における食物アレルギー対応指針」（文科省H27.3）、「学校におけるアレルギー疾患対応指針」（奈良県教委H28.2）を参考にH29年度に食物アレルギー検討委員会を開催し、「桜井市学校給食における食物アレルギー対応指針」（H30.3）を作成し、対応している。

<アレルギー対応の流れ>

- ・在校生は、生活管理指導表、食物アレルギー問診表、学校給食食物アレルギー対応申請書を学校長経由でセンターに提出。
- ・転入生、アレルギー対応に変更がある場合は、随時センターの栄養教諭と面談。新1年生は、就学時健診の際にも相談に応じる。

↓

- ・**センター**食品加工分析一覧表、アレルギーチェック済献立表を作成し、学校（1部）、保護者（2部）に渡す。

↓

- ・**保護者**献立表に確認のサインをし、1部返却する。

↓

- ・**学校**アレルギー除去食・代替食、学校用献立表のチェックを行う。

↓

・センターアレルギー除去食・代替食指示書の確認を行い、調理員へ指示する。



・調理員動線の確認をしながら打合せをし、生徒の名前チェックを行う。



<調理当日>

・センター専用容器に学校名、学級、名前の札を付け、アレルギー食専用かごに入れて配送。



・学校担当者が献立表とアレルギー食の確認をする。



・学級担任が献立表とアレルギー食を確認し、本人の食器へ。

主な質疑応答

質問 見学会や試食会はどれくらい開催されたか。

回答 センター竣工後、家庭教育学級は市内小中学校約13校、近隣地域の方6件、その他老人会、公立学校関係者などが見学会に見えた。個人での受付はしていないが、団体での受付をしている。

質問 災害時対応用のアルファ化米はアレルギー対応しているか。

回答 年度初めに学校給食用のアルファ化米1万食を備蓄しているが、アレルギー対応はしていない。現在備蓄しているアルファ化米はセンター予算の賄材料費で購入しており、その年度内でアルファ化米を使い切る必要がある。どのような備蓄の仕方が良いのか現在試行している状況で、災害担当の危機管理課の予算で購入した物資を給食で使いながら、使った分を補充していく方法など、今後協議をしていく予定である。

質問 災害時にセンターを早期復旧するため、電気、水、燃料などセンター建設に当たって配慮した部分はあったか。

回答 センターの場所は都市ガスが来ておらず、バルクタンク方式でプロパンガスを大量に使う形。センターで給食調理をフル回転で行うと、1日と少し利用できる状況。センターが被害にあっていなければ、電気が使えれば、水とガスは使用できる。これまでは調理員が直営で調理をしていたため、災害時は公務員としてセンターに駆けつけて炊き出し等の対応をすることになっていたが、新センターでは給食調理の運業者選定の段階で災害時の対応実績等を選定条件に盛り込んでいる。

質問 アレルギー対応食を調理している人は専任か。

回答 調理運業者のアレルギー食担当が専任で2人いる。ただし、アレルギー食の調理がない日は、アレルギー食でない給食の調理の業務に当たっている。

- 質問 炊飯を外部委託しているがその理由は。
- 回答 旧のセンターのときから外部委託をしていた。炊飯器、洗米器、おひつ等を整備すると今のセンターの規模では場所が足りなくなる。センターを経由せず直接学校に届けられているが、茶碗はセンターのものを使用している。
- 質問 給食費について、アレルギー食と通常の給食で違いはあるか。
- 回答 小学校4,400円／月(267円／食)、中学校4,700円／月(287円／食)であるが、アレルギー食も同じ額である。牛乳を飲めない人は牛乳代を徴収していない。
- 質問 アレルギー食器はどれだけ用意があるか。
- 回答 現在116名のアレルギー対応をしているが、専用食器は50個用意している。卵と牛乳が同じ給食にあると対象者が70人を超えるが、卵だけなら50人を切るため、うまく献立を調整しながら対応している。
- 質問 アレルギー対応食の導入にあたって注意すべきことはあるか
- 回答 桜井市は旧センターのときからアレルギー対応を行っているが、今までセンターから保護者に一方通行で献立を提供しており、保護者からの声が聞けていなかったことが不安になっていた。検討委員会を開催し、保護者からの声を返してもらう方法をとったことで、何が食べられて何が食べられないか、はっきり分かるようになった。

調査結果のまとめ

○各委員の所感

- ・災害時用に炊き出しができるような設備があったり、給食調理の運業者選定に当たっても災害対応可能な業者ということで条件付けをしたことが参考になった。
- ・アレルギー対応を含めて職員には大変負担がかかっていると感じた。また、アレルギー相談室を学校ではなく、給食センターに整備し、そこで話を聞いて学校へつなげていくというやり方は、学校の負担が減るため関市にも参考になると思った。
- ・災害対応に当たり、桜井市のようなコンパクトな市であれば、1か所に給食センターをまとめて、災害対応をするというようなシンプルな構想で行けると思うが、合併した関市では広範囲に渡るため、センターを1か所にまとめると、リスク分散ができない。関市ではセンターの統廃合を予定しているが、災害時にセンターが果たすべき役割を1か所に集中すると不都合が出てくるのではないかと思った。
- ・関市が新センターを建設するに当たり、災害時用にどのような食品、機材を備蓄する必要があるか、また、停電時などにどのような対応をすべきか検討をする必要があると思った。桜井市では残食は焼却処理していたが、関市では生ごみ処理機の活

用や、リサイクルなどでごみを少なくしていく方法を検討していく必要があると思った。

- ・ 関市が建設を予定している土地は、土地が低いため水害の危険性がある。また、市の一等地に当たるようなところであるため、この場所に給食センターを作る必要があるのか、慎重な検討が必要であると思った。

○委員会として一致した意見

- ・ 現在、関市ではアレルギー対応として低アレルゲン献立を週に1～2回行っているが、桜井市では18種類という多くのアレルゲン除去の対応をしていた。また、アレルギー対応に当たり相談室を整備し、日常的に保護者や児童生徒との双方向のやり取りがなされ、きめ細かい対応の努力をされていた。こういった努力の積み重ねがあっただけで、今は対応できないようなアレルギーの方にも、将来的に対応を広げられることが期待できるものであるため、新センター建設に当たって相談室の整備や少しでも多くのアレルゲンを除去した給食が提供できるよう、検討してほしい。また、桜井市では災害対応を視野に入れた整備をしていた。関市においても炊き出しや、備蓄食料などセンターに整備すべきものを検討し、実際の災害を想定した訓練なども行っていく必要がある。以上について新センター整備に当たって十分に検討してほしいということで委員会として意見が一致した。